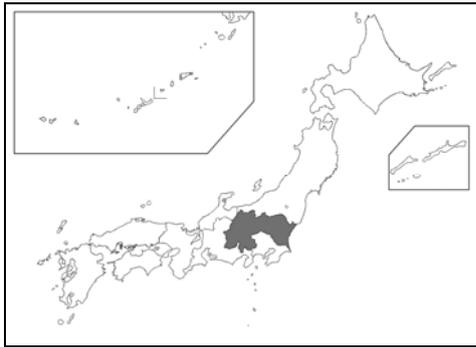


(3) 北 関 東



北関東地域では、景気は持ち直しの動きがみられる。

- ・ 鉱工業生産は持ち直しの動きに一服感がみられる。
- ・ 個人消費は緩やかに持ち直している。
- ・ 雇用情勢は改善の動きがみられる。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(_ は上方に変更、 _ は下方に変更)

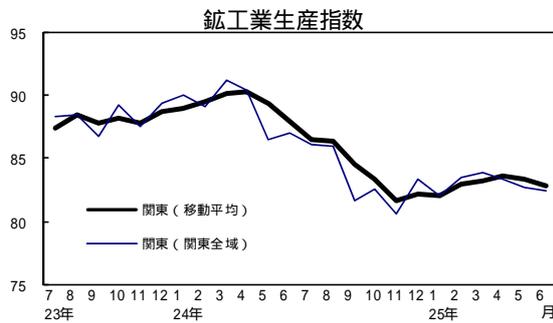
前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 25 年 5 月)	今回 (平成 25 年 8 月)	
鉱工業生産	持ち直しの動き	持ち直しの動きに一服感	
個人消費	底堅く推移	緩やかに持ち直し	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は持ち直しの動きに一服感がみられる。(関東全域)

4～6月期には、輸送機械は、生産車種変更により、小型乗用車が生産増となり増加した。一般機械は、それぞれ輸出向けに蒸気タービン、フラットパネル・ディスプレイ製造装置、半導体製造装置、プレス用金型が生産増となり増加した。電気機械は、国内電力会社向けの開閉制御装置と輸出向けの半導体・IC測定器、アルカリ蓄電池が生産減となり減少した。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		1～3 月期	4～6 月期	4月	5月	6月
輸送機械	15.2	4.8	0.3	4.7	5.1	3.3
化学	13.4	0.3	-	0.5	1.4	-
一般機械	13.2	2.8	4.3	2.3	8.1	1.1
電気機械	7.8	7.0	3.1	5.6	2.9	4.9
食品・たばこ	7.1	2.7	-	5.1	0.1	-
鉱工業	100.0	1.2	0.5	0.6	0.8	0.4

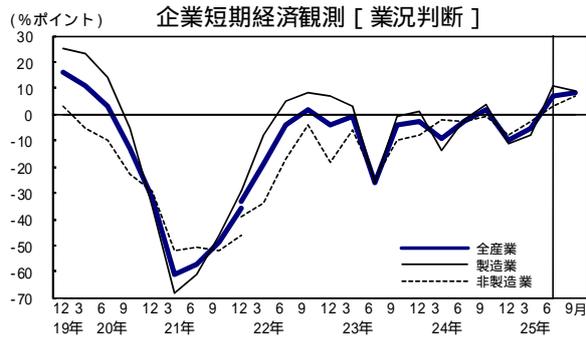
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。

2. 4～6月期、6月は速報値。化学、食品・たばこは、速報値では公表されていない。

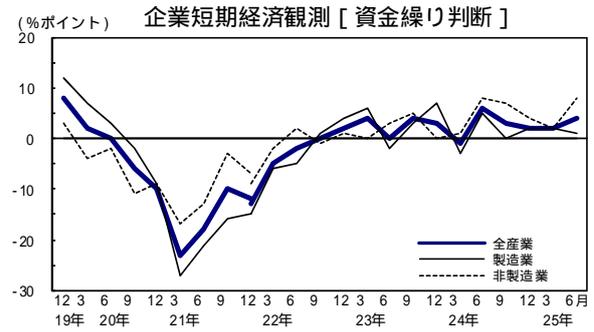
(備考) 1. 17年=100、季節調整値。最新月は速報値。

2. 太線は後方3か月移動平均。

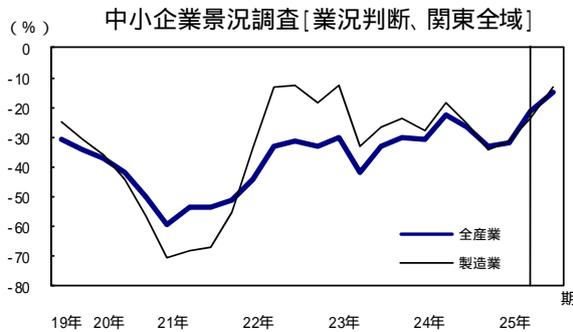
(2) 企業動向の業況判断は「良い」超に転じ、資金繰り判断は「楽である」超幅が拡大している。
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。25年9月は予測。
21年12月は新・旧基準を併記。
日本銀行前橋支店管内。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
21年12月は新・旧基準を併記。
日本銀行前橋支店管内。

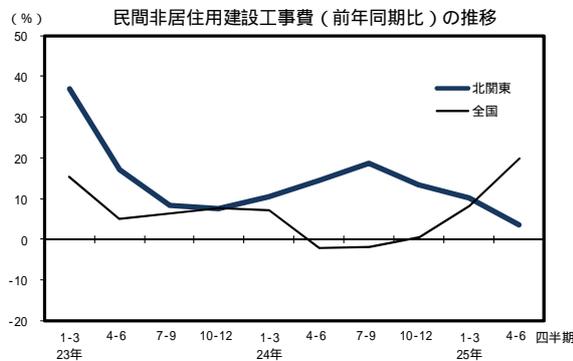


(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。25年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(7月)[企業動向関連(現状)]

「小売店、飲食店などは来客数が減っており、広告宣伝に積極的ではない(広告代理店)」などの回答がみられた。

(3) 設備投資の民間非居住用建設工事は増加している。



企業短期経済観測調査 [設備投資(6月調査)]

(前年度比、%)

	24年度実績	25年度計画
全産業	3.0(1.3)	2.8(7.1)
製造業	6.4(0.2)	1.9(7.6)
非製造業	4.4(3.5)	4.5(6.2)

(備考)()は前回(3月)調査比修正率。
調査対象は日本銀行前橋支店管内。

(3) 北関東

2. 需要の動向

(1) 個人消費は緩やかに持ち直している。

地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

4月は前月比0.5%減、5月は同0.2%増、6月は同0.5%増となった。

大型小売店販売額

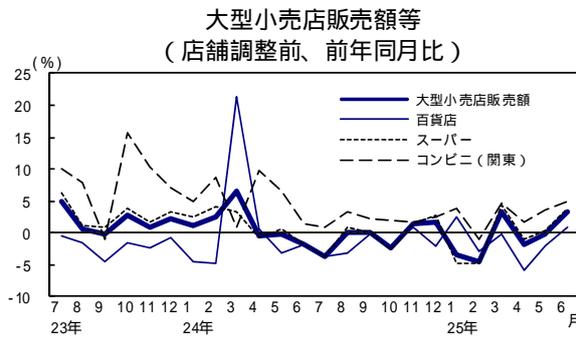
百貨店は、4月は、日曜日の数が前年より1日少なかったことや春物衣料、飲食料品等が不調だったことにより前年を下回った。5月は、上旬までの低気温により衣料品の動きが鈍く前年を下回った。6月は、夏のセールの前倒しがみられたことなどにより、衣料品全体の動きが良く、特に婦人・子供服・洋品が好調だったことにより前年を上回った。

スーパーは、6月初旬以降に高気温であったことにより飲食料品、化粧品などに動きがみられたこと等から前年を上回った。

景気ウォッチャー調査 (7月) [家計動向関連 (現状)]

北関東地域の家計動向関連DIは、47.6となり前月より2.8ポイント低下した。

「天候が不順で、特に客足の伸びる夕方の豪雨には閉口している (商店街)」など「やや悪くなっている」とする回答が増加した。

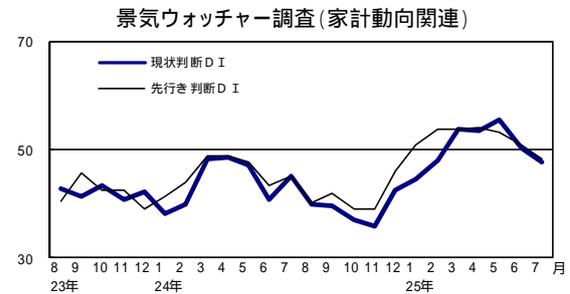
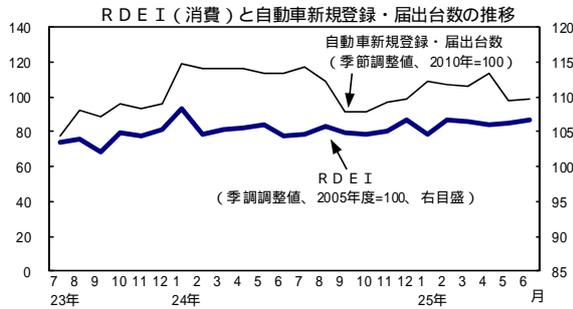


	25年4-6月	25年4月	5月	6月
RDEI (消費*1)	0.4	0.5	0.2	0.5
大型小売店 (*2)	0.4	1.8	0.1	3.2
百貨店 (*2)	2.4	5.8	2.2	0.9
スーパー (*2)	1.0	0.9	0.3	3.7
コンビニ (*2)	3.4	1.8	3.5	4.9
乗用車 (*3)	9.9	2.8	10.6	14.5
(季節調整値) (*3)	3.8	6.9	13.6	0.8

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)、コンビニは、関東全域

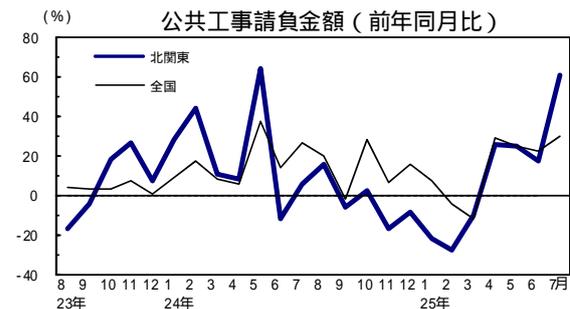
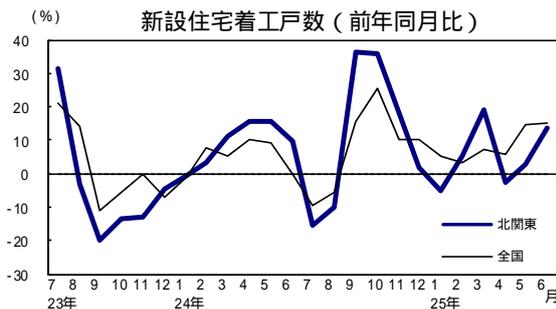
3. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))



(2) 住宅建設は大幅に増加している。

貸家が前年を下回ったものの、持家、分譲が前年を上回ったことから、全体では大幅に増加している。

(3) 公共投資は25年度累計で見ると前年度を上回っている。

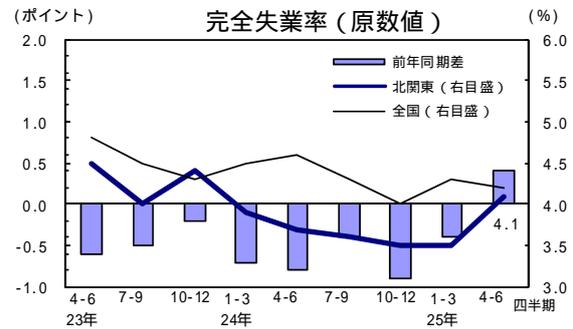
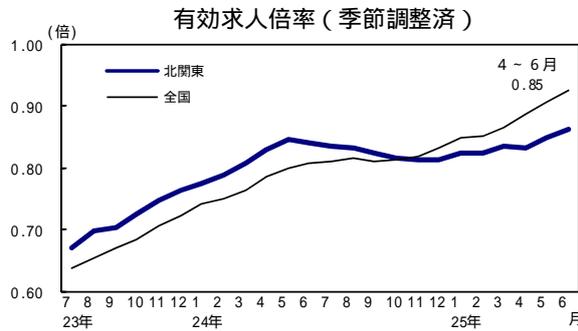


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は改善の動きがみられる。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を上回っている。



景気ウォッチャー調査 (7月) [雇用関連 (現状)]

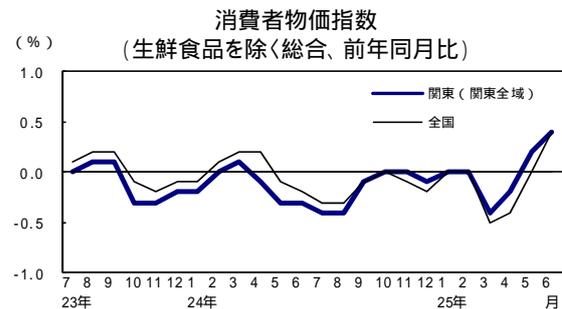
「新規求人、新規求職共に微増、微減の範囲で推移しており、若干の停滞感がある (職業安定所)」などの回答がみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに減少している。

(3) 消費者物価指数は上昇に転じている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	24年7-9月	10-12月	25年1-3月	4-6月	25年7月
倒産件数	151	148	149	144	50
(前年比)	3.4	5.1	6.3	8.9	22.0
負債総額	280	278	423	350	50
(前年比)	94.0	72.6	6.8	30.4	27.7



景気ウォッチャー調査 (7月) [合計 (特徴的な判断理由)]

<現状>

・パート職員の求人などは結構見られるが、正社員求人になると特定の職種に偏りがあるように感じる (学校 [専門学校])。

<先行き>

・宝飾品の需要期は秋口であることから若干の伸びは期待できそうだが、前年を上回ることができるかは疑問である (その他製造業 [宝石・貴金属])。

